



あらゆる境界をひらき、 持続可能な社会の礎を築く



磯部 雅彦

土木学会 第102代会長

11月24日に土木学会は創立100周年を迎え、学会誌記念特集号を発行することになりました。

土木学会が創立された1914（大正3）年はわが国の近代土木の自立期でありました。近代土木技術は、明治時代に御雇外国人技術者の指導によって治水、砂防、港湾、鉄道を中心に幕を開けました。大正

時代には、日本人技術者によって大河津分水事業や丹那トンネル掘削などの大工事を進めるとともに、1923（大正12）年の関東大震災からの復興事業を成し遂げ、近代日本の発展を支えました。

その後、第二次世界大戦による混乱から抜けだし高度成長を遂げた日本とともに、土木がありました。特に、今からちょうど50年前の1964年の東京

オリンピックを目標に、東海道新幹線、羽田空港からの首都高速道路や東京モノレールが開業し、先進国としての社会基盤施設が整い始めました。

現在に至るまでの、社会に対する土木の貢献は土木界の誇りとするところです。その中で、土木学会は土木技術者が集い、学術・技術の進歩に寄与し、社会に貢献してきました。

そして現在も、まだ不十分な社会基盤の整備を実現する必要があります。同時に、2011年の東日本大震災などを受け、災害を最小化するための防災システムを構築することが絶対必要であります。また、地球環境問題などが社会的問題として認識されるようになり、エネルギーや資源問題への貢献も求められています。

言い換えれば、持続可能な社



行幸通りより東京駅

(写真：アフロ)

会の礎を築くことが土木界に課せられた最重要な長期目標となつているのです。それには、安全な社会を築くこと、自然を尊重しながら環境を保全し循環型社会を築くこと、活力ある経済を支えること、そして、地域の個性が発揮された生活を保証することが重要です。土木学会はこの目標を目指して、次の100年での活動を開始しなければなりません。

土木工学は総合工学です。創設時から土木学会は周辺分野・他分野の専門家の参加も必要とし、歓迎し、迎え入れています。土木の周辺のあらゆる境界を開かなければ、目指している大きな目標は達成できません。

土木学会は、創立100周年を記念し、各支部を始めとしてさまざまな行事を行つていきます。その多くが市民など土木学

会外の人びととの連携によるものです。つまり、100周年は土木学会内外の人びとと土木について学び、議論し、理解を深めるよい機会となります。100周年は土木学会内外の人びととの交流の場を与え、土木に対する理解を深めながら、目標に向けての歩みを進めるものです。100周年は、人びとを総合化するよい機会なのです。

この記念特集号には、100周年記念行事の内容はもとより、これまでとこれからの土木に関するさまざまな視点が詰まっています。会員の方々とぜひこれを共有し、非会員の方々にも発信し、これからの土木を考えたと思います。そして、100年後の創立200周年記念号の内容がより明るいものとなるようにしたいと思っております。